

## 第 152 回 小平市の高木亮範像

筆者：林 久治（記載：2021 年 5 月 2 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気侷な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1](#) のサイト/) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

3 月になり、武漢肺炎の緊急事態宣言は 2 週間延長になったが、自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。最近の東京都新規感染者は 1 日に 300 人前後に収まっているので、出来るだけ人出の少ない所に行くようにしている。

3 月 7 日には早稲田に行って、その探索記を [146 回の記事/f](#) に記載した。3 月 15 日には新宿中央公園を探索し、その探索記を [147 回の記事/f](#) に記載した。3 月 27 日に大久保に行って、その探索記を [148 回の記事/f](#) に記載した。4 月 3 日には、成城学園の澤柳政太郎像と吉祥寺駅前の「ゾウのはな子像」を探索し、その探索記を [149 回の記事/f](#) に記載した。4 月 10 日には、中野区の神明氷川神社に設置されている伊藤金左エ門像を探索し、その探索記を [150 回の記事/f](#) に記載した。4 月 16 日には、練馬区の荒川最勝像と中野区の舜学義堯像を探索し、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

3 回目の「緊急事態宣言」が、東京、大阪、兵庫、京都の 4 都府県で、4 月 25 日から 5 月 11 日までの 17 日間、出されることとなった。そこで、私は発令前日の 4 月 24 日に、小平市泉蔵院に設置された高木亮範像を探索した。本稿は本像の探索記である。本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

### （2）小平市の泉蔵院

泉蔵院の周辺地図を次ページの図 1 上に示す。なお、当院は西武新宿線の小平駅から東京街道（都道 227 号線）を東に（錦城高校の方向に）約 20 分歩いた場所にある。本図には小平駅が入っていないが、その詳しい地図 ([3](#) のサイト/6) には当駅が含まれている。



図1. 上：泉蔵院の周辺地図 ①：泉蔵院、②：錦城高校、③：稲荷神社。本図は、[2\) のサイト/](#)より借用。なお、詳しい地図は、[3\) のサイト/6](#)をご覧ください。

下：稲荷神社（大沼田）

小平駅から泉蔵院（図1上の①）に行く途中に稲荷神社があった（図1上の③）。その写真を図1下に示す。この一帯は、23区内と比較して、土地が広々としている。当社の由緒書には、次のような趣旨が書かれていた。

大沼田新田は、1724年武蔵国入間郡大岱村（おんたむら、現・東村山市恩多町）の名主當麻弥左衛門（たいま・やざえもん）の願いによって、開発を許可された村請新田です。1736



年多摩郡今寺村（現・青梅市今寺）から名主弥左衛門が稲荷神社を勧誘し、泉蔵院内に社を建てて村内の鎮守としました。1753年と1848年には、山城国紀伊郡の稲荷本宮より安鎮証紙を交付せられ、正一位の位を授けられました。1868年現在地に遷座し、1873年には村社に列せられました。御祭神：は、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）



図2. 上：泉蔵院の山門、下：小平大不動明王尊。



稲荷神社の先をさらに5分位東方に歩くと、泉蔵院（図1上の①、東京都小平市大沼町5-9-8）に到着した。当院も緑が豊かで境内は広がった。その山門の写真を図2上に示す。また、境内には、色々な堂宇や尊像が設置されていた。建物や庭は綺麗に整備されていた。図3上には境内の竹林を、図3下には境内の花園に植えられた色々な花の一部（テッセンの花）を示す。



図3.  
上：境内の竹林、  
下：境内の花園に植えられたテッセンの花。

次ページの図4に、当院の案内板を示す。それには、次のように書かれていた。

大沼新田では、開拓当初から寺院の建立を念願し、1737年のはじめての検地のときに代官に願い出て、寺領予定地4000平方米余の年貢免除を認めてもらうなどの準備を進めました。そして多摩郡今寺村（現青梅市今寺）の報恩寺の塔頭であった泉蔵院を譲り受ける交渉をして話がまとまり、1744年2月、新田側と報恩寺の連名で寺社奉行に引寺を願い出て、同年7月許可を得ました。同年12月5日に引寺を済ませ、運承法印を勧請して開祖とし、當麻山泉蔵院が生まれました。

宗派 天台宗延暦寺派 本尊 如意輪観音



なお、当院の紹介記事は、[4\) のサイト/1](#)が優れている。



図4. 当院の案内板

### (3) 高木亮範像

当院本堂の前に、1基の胸像が設置されていた。その写真を図5に示す。本像の近接写真を次ページの図6上に示す。(本文は、7ページに続く。)



図5. 当院本堂の前に設置された胸像





図6. 上：当院の胸像、下左：台座の題字、下右：本像背面のサイン。

図6 下左には台座の題字を、図6 下右には本像背面のサインを示す。題字には「中興 無量光院大僧正亮範大和尚」と書かれていた。サインは「T. Tanaka」と読める。これだけでは、像主の姓が分からない。境内には「昭和五拾六年 泉蔵院本堂鐘楼新築記念碑」と題する大きな石碑が設置されていた。その一部を、図7に示す。本碑には、「當麻山泉蔵院第三十五世 大僧正高木亮範」と大書されていた。これで、像主の姓名が「高木亮範」であることが判明した。なお、制作者の姓名については、後で検討する。



図7. 「昭和五拾六年 泉蔵院本堂鐘楼新築記念碑」と題する大きな石碑

高木亮範像の台座背面には、高木師の業績を記載した銘文が貼付されていた。その写真を9ページの図8に示す。本文には、次のように書かれていた。

泉蔵院中興第三十五世無量光院大僧正亮範大和尚

明治 33. 9. 2 川崎市幸福寺に誕生 俗名 静濟

44. 4. 8 横浜市金蔵寺師の徒弟となり得度授戒 亮範と改名

大正 3. 1. 4 浅草泉蔵院兼住職壬生雄舜師徒弟に転師

12. 3 天台宗大学（現在大正大学）卒

昭和 12. 4. 5 浅草寺の幼稚園主事・婦人会館主幹・世界観音運動主事就任

15. 1. 9 泉蔵院住職に任命さる

21. 5. 24 本山布教師を命じらる

22. 4. 1 比叡山中学校校長となる

23. 4. 19 比叡山高等学校校長（中学校長・専門学院講師兼任）となる



- 38.10.30 天台宗布教師連盟（布連と略称）結成に参画
- 40.02.6 布連関東信越地区（関信協と略称）結成に参画
- 40.10 関信協第一回大会に於いて「一隅を照らす運動」展開を首唱決定
- 42.4.27 関信協幹事長となる
- 42.9.11 特待により三諦章付緋紋白大五条着用を許可される
- 44.6.16 関信協会長・布連理事となる
- 46.3.20 府中刑務所教悔師を委嘱される
- 46.8.1 東京教区布教師会長を命ぜられる
- 46.8.16 大僧正補任
- 52.4.1 布連理事長となる
- 60.5.30 遷化・世寿八十六歳 法臘七十五年 住職在職四十六年

#### 泉蔵院に於ける業績

本堂・薬師堂・鐘楼・多宝塔・無量寿（阿弥陀）堂の落成、青銅大不動尊の勧請安置  
他多数

第三十五世住職の遺徳を偲び、三回忌を機に檀家総代・世話人・檀家各家の皆様のご協力により建立する 昭和六十二年五月二十六日

なお、明治33年は1900年、昭和60年は1985年である。

上記の銘文はかなり風化していて、文字が読み難くなっている。ネット検索をすると高木師の経歴は出て来ないので、本文が師の経歴を伝える唯一の資料となっている。従って、「このような市井の人物の生き様を記録することは、銅像探偵団の最も重要な役割の一つである」と私は思っている。私が調査した高木師の記事の主なものを以下に示す。

- ① [5\) のサイト/0](#) : 高木亮範は「壬生雄舜還暦記念蓮堂滴露」と題する本（出版社：中央仏教社、出版年：1937）の編者である。
- ② [6\) のサイト/h](#) : 高木亮範は「米国における宗教教育の発達過程」と題する本（出版社：文一出版、出版年：1972）の著者である。
- ③ [7\) のサイト/1](#) : 天台宗のおしえについて様々な書が著されていますが、管見ではかつて小生の得度記念に頂戴した冊子「天台宗のおしえ—宗祖大師のご事蹟ををたどりて—」（高木亮範師）が一般の方にも分かりやすい言葉で綴られ、かつ簡潔にまとめられていると思います。（[本サイトに、本冊子の内容が掲載されている。](#)）

最後に、高木像の制作者である「T. Tanaka」の氏名について、調査結果を報告する。「T. 田中 彫刻家」で検索すると、次の2名の方が出てきた。

- ① [8\) のサイト/1](#) : 田中太郎：彫刻家（1911～1992）。明治44年：七尾市木町に生まれる。大正15年：七尾男子校高等科卒、建築彫刻を習う。昭和9年：上京し彫刻家・平櫛田中に師事し入門。昭和27年：法隆寺金堂復元に従事。修建責任者であり院展の重鎮でもあった石井鶴三の求めにより、雲形肘木や雲斗の修理に参加するなど、その実力は高く評価された。
- ② [9\) のサイト/a](#) : 田中 毅（Tsuyoshi TANAKA）、1951年宮崎県生まれ、1975年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業、1977年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。現在埼玉県在住。（[ロボット像が多い](#)）



高木像の制作者である「T. Tanaka」の候補者として、他の人物も存在するかも知れないが、私は「田中太郎が最も可能性が高い」と考えている。



図8. 高木亮範像の台座背面に貼付された高木師の略歴

以上の資料などにより、高木像の概要は次の通りである。

高木亮範（小平市）

設置場所：東京都小平市大沼町 5-9-8 泉蔵院本堂前

制作者：T. Tanaka（田中太郎？）

建立時期：1987年5月26日（3回忌を機に檀家一同が建立）

設置経緯：泉蔵院は当地の新田開拓者の菩提寺として、1744年に創建。高木亮範師（1900.9.2-1985.5.30）は川崎市に生まれ（俗名：静濟）、1911年に得度し、1923年に天台宗大学（現・大正大学）卒業。1940年当院の35世住職となる。師は当院の整備に尽力し、中興の祖と呼ばれている。

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<https://www.mapion.co.jp/phonebook/M06005/13211/L0695237/>
- 3) のサイト：  
<https://www.mapion.co.jp/m2/35.7385530877804,139.49769971813063,16>
- 4) のサイト：<http://www.ksnc.jp/kodairashoukai/senzouin/senzouin.html>
- 5) のサイト：<https://iss.ndl.go.jp/books/R100000039-I001584536-00>
- 6) のサイト：<http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BN05356282?hit=-1&caller=xc-search>
- 7) のサイト：<http://yuyusangai.com/sougya/osie.html>
- 8) のサイト：<http://ipponsugi.org/2009/04/post-22.html>
- 9) のサイト：[https://ecru-no-mori.jp/artist/tsuyoshi\\_tanaka/#artist\\_bio\\_ja](https://ecru-no-mori.jp/artist/tsuyoshi_tanaka/#artist_bio_ja)